

# 仏教聖典

公益財団法人 仏教伝道協会

## 法輪について



法輪とは梵語（サンスクリット）のダルマ・チャクラ Dharma-cakra の漢訳で、車の輪が回り続けるように、未来に向かって永遠に弘められていく仏の教え、すなわち仏法を象徴しています。八つの放射状の輻は、仏教の最も重要な実践徳目である「八正道」（正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方、正しいものの方）を表わしたもので、仏像がつくられる以前の時代には、この法輪が仏教における礼拝の対象として捧まれ、現在では仏教徒共通のシンボルとして国際的に用いられています。

仏の智慧は海のごとく広大にして、仏の心は大慈悲なり。仏は姿なくして妙なる姿を示し、身をもって教えを説かれた。

この本は二千五百余年の間、国を超え民族を超えて保ち続けられてきた五千余巻の仏の教えの精髓である。

ここには仏の言葉が凝縮されており、人びとの生活と心の実際の場面に触れて、生きた解答を与えている。

## 法 句 經

怨みは怨みによつて果たされず、忍を行じてのみ、よく怨みを解くことを得る。  
これ不変の真理なり。 (五)

わが愚かさを悲しむ人あり。この人すでに愚者にあらず。自らを知らずして、賢しと称するは愚中の愚なり。 (六三)

戰場において、数千の敵に勝つよりも、自己に勝つものこそ、最上の戦士なり。 (一〇三)

たとえ百歳の寿命を得るも、無上の教えに会うことなくば、この教えに会いし人の、一日の生にも及ばず。 (一一五)

人に生まるるは難く、いま生命あるは有難く、世に仏あるは難く、仏の教えを聞くは有難し。 (一二二)

もろもろの悪をなさず、もろもろの善を行い、おのれの心を淨くす。これ諸仏の教えなり。 (一八三)

子たりとも、父たりとも、縁者たりとも、死に迫られしわれを、救うこと能はず。 (二八八)

# 目次

## ほとけ

頁

第一章 史上の仏ほとけ…………… 二

一、偉大な生涯しょうがい…………… 二

二、最後の教え…………… 一〇

第二章 永遠の仏…………… 一五

一、いつくしみと願い…………… 一五

二、救いとその手だて…………… 一九

三、仏はとわに…………… 二三

第三章 仏の姿と仏の徳…………… 二六

一、三つのすがた…………… 二六

二、仏との出会い…………… 三〇

三、すぐれた徳…………… 三三

# おしえ

第一章	因縁 <small>いんえん</small> .....	四〇
-----	------------------------------	----

一、四つの真理.....

二、不思議なつながり.....

三、ささえあつて.....

第二章	人の心とありのままの姿.....	四九
-----	------------------	----

一、変わりゆくものには実体がない.....

二、心の構造.....

三、真実のすがた.....

四、かたよらない道.....

第三章	さとの種.....	六八
-----	-----------	----

一、清らかな心.....

二、かくれた宝.....

三、とらわれを離れて.....

第四章	煩悩 <small>ぼんのう</small> .....	八四
-----	------------------------------	----

一、心のけがれ.....	八四
二、人の性質.....	九一
三、現実の人生.....	九三
四、迷いのすがた.....	九九

第五章	仏の救い.....	一〇六
-----	-----------	-----

一、仏の願い.....	一〇六
二、清らかな国土.....	一一四

## はげみ

第一章	さとりへの道.....	一二〇
-----	-------------	-----

一、心を清める.....	一二〇
二、善い行い.....	一二八
三、仏のたとえ.....	一四〇

第二章	実践の道.....	一五八
-----	-----------	-----

一、道を求めて……………	一五八
二、さまざまな道……………	一七三
三、信仰の道……………	一八六
四、仏のことば……………	一九四

## な か ま

第一章 人のつとめ……………	二〇四
----------------	-----

一、出家 <small>しゅっけ</small> の生活……………	二〇四
-----------------------------------	-----

二、信者の道……………	二一〇
-------------	-----

三、生活の指針……………	二二一
--------------	-----

第二章 仏国土の建設……………	二三五
-----------------	-----

一、むつみあうなかも……………	二三五
-----------------	-----

二、仏の国……………	二四三
------------	-----

三、仏の国をささえるもの……………	二四八
-------------------	-----

各章節の典拠……………	二五五
-------------	-----



## 付 録

一、 仏教通史……………	二六六
二、 仏教聖典流伝史……………	二七五
三、 仏教聖典の由来とあゆみ……………	二七八
四、 生活索引……………	二八一
五、 用語解説……………	二八七
仏教伝道協会について……………	二九六

本聖典中で\*印をつけてあるものは、用語解説に含まれているものである。

